



神奈川県立川崎図書館 が所蔵する
全国有数の〈社史コレクション〉を
さらに活用していただくため、
社史の使い方や、社史の楽しさ、
社史情報などをお届けしていきます。



昨年、干支のへびの社史を調べて挫折したときに「来年こそは」と宣言しました。そこで今年の「社楽」では馬の社史からスタートします。ただし、競馬や牧場、社名関係は直球すぎるので、会社のマークや社章に馬が使われている企業の社史を見ていきます。

まず、馬のマークの参考書でおなじみの受験研究社と同じ会社の『増進堂百年の歩み』（1995年刊）。巻頭で商標「馬のマーク」の説明が出ています。厳密には騎士のマークで、中世の騎士が主君に忠実であるように、増進堂・受験研究社の出版物も読者に忠実であることを意味しているそうです。

パンやお菓子などで有名な中村屋の紋章風の商標にも馬が描かれています。『中村屋一〇〇年史』（2003年刊）の巻頭の「商標の由来」によると、二頭の馬が描かれているのは、双馬すなわち相馬に通じ、創業者の相馬愛蔵の姓からとったそうです。二頭の馬の上に描かれた二つの家紋は相馬家と夫人の実家のもので、先祖を敬うように配したと載っています。商標登録は昭和12年です。

新潟県三条市のマルト長谷川工作所が製造するペンチやニッパー類には、馬のマークと「KEIBA」のブランド名が入っています。『マルトはじめの物語』（2006年刊）によると、創業者の

初代・長谷川藤三郎が荷馬車用の馬を飼っていて、だんだんに馬が好きになり、競走馬も所有するようになりました。最初の図柄では騎手も載っていましたが、現在は馬の頭を図案化したものになりました。KEIBA印の工具類は、高品質を示すものとして、世界的に知られています。

岐阜県高山市の飛騨運輸の社章も馬です。『運送ひとすじ五十年』（1977年刊）では、自動車以前の「荷車・馬車時代」の項目から飛騨地方の運送の説明がはじまっています。特別寄稿「近世飛騨交通史考」（菱村正文氏）も収録されています。また、創業者・漆山義雄による「随筆・折々の記」の「馬と私」では「私は馬が好きだ。丙午生まれのせいだけでもないようである。」と書き始められ、青年期に馬車宿で飼っていた馬の思い出が記されています。

（科学情報課・高田）

謹賀新年、馬の社史です！

社史室「社史の窓辺」

社史室に入室して正面の目立つ書架に「社史の窓辺」というコーナーを設けました。棚で4つ分の小さなスペースですが、季節感のある社史、話題の会社・業界の社史、この「社史」で紹介した社史などを、並べていきたいと思えます。これまで「マンガの社史」「師走の社史」などを特集しました。みなさまが社史を手取るきっかけになったり、社史への興味を広げられたいらした際には、ぜひご覧ください。



靴下の中には…

当館では社史類として、業界の団体史も集めていますが、変わった装丁の一冊が届きました。奈良県の広陵町靴下組合による『広陵町の靴下百年史』（2013年刊行）です。本のケースがなんと靴下。広陵町は靴下生産で日本一だそうです。広陵町だけでなく、内外の靴下の歴史もわかりやすく説明されています。



上の写真で、右側が本、左側が靴下（布）のケースになっています。靴下に入れやすいように本の角を丸くしているなど、小さな工夫も。

●新着社史から ～ 紙面の関係で、今回も2冊だけですが～

北から南、刊行の新しいものから古いものまで、多くの社史を企業・団体・個人の方々から寄贈していただいています。これからも、ご寄贈をよろしくお願いします。

書名	会社名	資料番号	刊行年月
内外ゴム株式会社 100周年記念誌	内外ゴム株式会社	81579443	2013年7月
日本の履物をヒントに、世界で初めてビーチサンダルを開発した経緯を知ることができます。			
鶴屋百貨店 50年史	株式会社鶴屋百貨店	81579427	2002年6月
熊本県を代表する百貨店。その年に起こった事柄をまとめた構成が見やすかったです。			

●お問い合わせ先 神奈川県立川崎図書館 科学情報課

210-0011 川崎市川崎区富士見2-1-4

電話：044-233-4537 FAX：044-210-1146

<http://www.klnet.pref.kanagawa.jp/kawasaki/index.html>